

なつやすみのおべんとう

さいたま市立上落合小学校 一年
四 元 沙 奈

なつやすみでいちばんおもいでにのこっていることは、まいにちおかあさんのおべんとうをたべたことです。わたしのおかあさんははたらいているので、わたしはなつやすみのあいだずっとおかあさんのつくったおべんとうをもってほうかごじどうくらぶにいつていました。ほんとうはおかあさんがいえにいてくれたらいいのにな、いっしょにほかほかのごはんがたべたいな、とおもうけれど、おべんとうがあるからさびしくありません。

おべんとうのじかんがくると、はやくたべたくてぱっぱとたくをします。ふたをあけるといつもちいさなおにぎりがみつつはいつていて、ゆでたまごは、おはなのかたちにくいつてあります。

おかあさんはいつも、

「はやくきゅうしよくがはじまるといいのに。」

と、いいながら、はやおきをしておべんとうをつくつてくれます。かぜをひいてあたまがいたいときも、おとうとがみずぼうそうにかかってかんびょうがたいへんなときも、いちどもやすまずにつくつてくれました。

わたしはおとなになって子どもができたら、やっぱりおかあさんみたいにはたらいていたいのです、そのときは、こどものためにいっしょけんめいおべんとうをつくつてあげようとおもいます。ちいさなおにぎりをみつつと、おはなのかたちのゆでたまごをいれて、さびしくないようにしてあげたいとおもいます。

もうすぐなつやすみがおわってきゅうしよくがはじまるので、さいごのおべんとうのひには、おかあさんにてがみをかこうとおもいます。

「ながいなつやすみのあいだ、まいにちおべんとうをつくつてくれてありがとう。」

おかあさんのおにぎりとゆでたまご、だいすきだよ。

ふゆやすみも、たのしみにしてるね！」